島根県立図書館報

圖書館たより

号数　第44号
発行日　昭和54年11月1日
編集発行　島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852)22－5725
印刷　渡部印刷

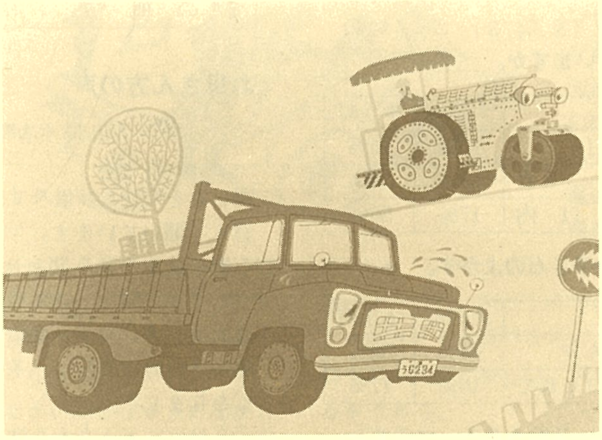
親子読書をすすめて

木次町では、昨年9月より親子読書をはじめた。当初は全町5幼稚園の内で、木次幼稚園のみで実施したが、中途から他の幼稚園より要望がでて、今では全幼稚園（総園児数 294名）でとりくみ、さらに今秋からは、各小学校の1年生も加わっている。

このように親子読書をはじめて満1年たった今、「親子読書をすすめて、よかった。」とつくづく思う。幼稚園のお母さんらに合うと親子読書が話題となる。「毎晩毎晩本をよんでやることは、大変ですよ。」これはほとんどのお母さんから出る声、だが「もうとてもやれません。とうとうやめました。」というお母さんはいない。だれもが忙しい中、疲れた身体でも続けている。ひとりの落後者も出ない。これは親子読書の中に、何かお母さんらをひきつけるものがあると思った。

「今までは、本などを読むひまがないと思いこんでいましたが、それを日課にすれば、読まれないことはないと思うようになりました。次の本が楽しみです。」とあるお母さんの便り。最近幼稚園の連絡帳をよんだ。その中で「親子読書は、毎日でえらいですが、何よりも百姓の家庭にとっては、家族みんなの理解と協力がなくてはできないことです。子どものため家族みんなが助け合って……」このお母さんの願いがみんなに通じて、今ではおじいさん、おばあさんも協力して、家族みんなで親子読書。

お母さんはこのよろこびを「前ごろは夜遊んで9時頃までテレビを見ていて、朝もなかなか起きないでこまった。今ごろは風呂からあがって本を読んでやり、8時ごろには眠り、朝も自分で起るくせがつきました。これも家のひとみんなのおかげです。」と述べている。こうして家族ぐるみの親子読書が、だんだん多くなった。この間あるお嫁さんが「今ごろはね。おばあちゃんが『お前早く本を読んでやれ、かたづけはわしがやるからナ』といってくれるようになりました。」また「たまにお父さんが読んでやります。はじめはそわそわして落つかないようでしたが、今ごろは、「なんでねずみはにげたの」ときいたりして、本の中へ子どもといっしょにとけ込んで行き、ほんとに楽しそうです。」と2人ともニコニコ顔で話してくれた。


（のろまなローラー　小出正吾さく）

ある母親の会で「私ね。忙しいから、いつも子どもにガミガミばかりいっているでしょう。でも親子読書の時だけは、よいお母さんになれる。10分間の良いお母さんだワ。」みんな大笑い。また文字の少い本では、自分で絵をみてことばをつくり、「おかあちゃん、聞いてよ。」と読んで聞かせてくれて驚いた。というお母さんもうれしそうだった。

こうして親子読書は大勢のみなさんの力ですすめられている。しかしその中に、県立図書館の先生方の熱心なご指導と町図書館の塔間主任や井上司書の積極的な研究と努力があることを忘れてならない。

親子読書は、親と子のふれ合いの中で、常に何かがつくられていく。そこにお母さんらの苦労とよろこびがあると思う。**（木次町教育委員会教育長　藤井　暁）**

県下にみる　親子読書のひろがり

親と子のふれあいと、子どもの健やかな成長を願って、今県下では、「親子読書」に対する認識が深まり、幼稚園、保育所、公民館を中心に、各地区で組織ぐるみの運動が行われています。

中でも、大田市は既に、昭和48年から公民館を基盤としてとり組まれ、現在では全市内に浸透しています。

木次町は、昭和53年度から幼稚園・町立図書館を中心に、仁摩町は、今年度から、保育所を中心にスタートしました。

それぞれ、幾度か研修会を重ね、その成果も徐々に現われつつあります。

そこで、この3地区での「親子読書」に関するアンケートや、お母さん方の声をいくつか紹介しましょう。

親子読書アンケートをもとに

大田市教育委員会調査（S.54.3）　195名対象
木次町立図書館調査（S.54.3）　287名対象

(1)毎日読み聞かせをしていますか。

		大田市	木次町
毎日		15%	16%
1週間	4日 ～ 6日	68%	34%
	3日以内	17%	50%

(2)読み聞かせについてお子さんのようす。

	大田市	木次町
いつも自分からすすんで	84%	83%
いつも親から誘いかけられて	16%	17%

(3)読み聞かせをするのは一日のうちでいつですか。

	大田市	木次町
昼間	0.5%	3%
夕食後	43 %	33%
ねる前	38.5%	55%
いつでも	18 %	4%
その他	―	5%

(4)母以外で読み聞かせをする人はだれですか。

	大田市	木次町
父	45%	50%
祖母	27%	31%
祖父	3%	2%
その他（姉・兄）	9%	17%
母親のみ	16%	―

(5)親子読書で困ること。

	大田市	木次町
毎日本を読んでやるのが面倒だ	4%	13%
夜いつまでも読んでくれといって困る	10%	11%
読み聞かせをあまり喜ばない	4%	5%
忙しい時にねだられるから困る	30%	37%
本を破ったり汚したりするから心配	9%	11%
外遊びを十分させたいので負担になる	1%	3%
その他（別に問題はなし）	42%	20%

(6)親子読書の今後のあり方。

	大田市	木次町
1年位続けたらやめてもよい	3%	13%
2年位続けたらやめてもよい	6%	7%
3年以上続けたい	2%	2%
完全に1人読みができるまで続けたい	29%	18%
1人読みができても続けたい	53%	51%
その他	7%	9%

お母さん方の声

～大田市・木次町・仁摩町でひろう～

○同じ本をたびたび借りて来ますが、読んでやると喜んで聞いています。

○1冊の絵本を読み聞かせしていると、他の兄弟がやってきて聞いています。

○以前は、テレビが一番楽しかったけど、今は読み聞かせの方が楽しく、子供番組を30分位しかみなくなりました。

○「今日は、どんな本を借りて帰るか楽しみにしているわ」といって、朝、子供を送り出します。

○内容がやさしくわかり易い本だったら喜んで聞きますが、少しむずかしくなると手わるさしたり聞こうとしません。

○どんな本を与えてよいのかわからず、とかく雑誌が多かったですが、本について親子共理解することができました。

各地区共通した喜びの声は、「親子のふれあいのみならず家族間のつながりも密になった」ということです。多忙な日々のなかですが、お母さんをはじめ家族の方々の愛情のなかで、親子読書は確かな足跡を残しつつあるようです。

こどもの本 (3)
―読みきかせに適した本・のりものえほん―

のせて　のせて

松谷みよ子　文　　　東光寺　啓之　絵

童心社　300円

〝まこちゃんのじどうしゃです。はしりますよ。ブブー〟〝ストップ！　のせてのせて〟のくりかえしでうさぎ、くま、ねずみ達が次々と車に乗って走る。〝あ、トンネルだ！〟〝まっくら　まっくら〟のところでクライマックスになる。見開きがまっくろ。トンネルの入り口だけ白くうき出ている。

ほんとうにトンネルに入った気持にさせる。〝でた！お日さまだ〟でみんな楽しそうに車に乗っている。読者も一緒に車にのって楽しめる。

子どもの心をたくみにとらえた楽しい本である。

のろまなローラー

小出正吾　さく

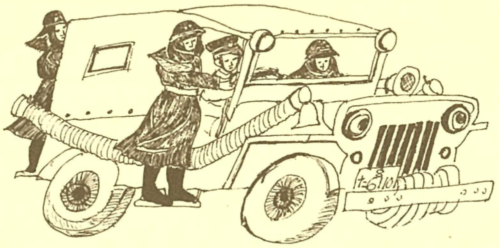
山本忠敬　え

福音館書店　380円

のろまなという題名からして他の自動車絵本と少し違っている。

ローラーが工事中のでこぼこ道をなおしていると、トラックやりっぱな自動車が「じゃまだよ。どいたり、どいたり。」とばかにしながら追いこして行ってしまう。ローラーが山道にさしかかると、さっきの車が次々とパンクして動けなくなっている。

「はやくなおしておいでなさい。」となぐさめながら、ローラーが行くとパンクのなおった車が「きみのおかげで、でこぼこ道がたいらになった。ありがとう、ローラーくん。」と感謝しながら通りすぎていく。のろまなローラーとスピードのある車との対話を入れながら、マイペースでごろごろ、ごろごろ道をなおすローラーの姿を描いている。



(「しょうぼうじどうしゃ　じぷた」より)

ひこうき

石川重遠　さく・え

文化出版局　300円

左ページに文、右ページに折り返しの絵という縦14センチ、横17センチの小型絵本。

〝こんどはプロペラいくつかな？〟〝あれあれ、なにがはじまるのかな？〟〝どこからにもつをおろすのかな？〟で右ページの折り返しを開く、とプロペラの数がでている絵、飛行機の先端が開いて車がでてくる絵がある。飛行機の種類と働きが折り返しを開くことによって分かるしくみになっている。

子どもに折り返しを開かせながら、親と子で楽しめる本である。

「のりものあれあれ絵本」の中の一冊で、他に「じどうしゃ」「ふね」「でんしゃ」「きしゃ」がある。

はたらきもののじょせつしゃ　けいてぃー

バージニア・リー・バートン　文・絵

石井桃子　訳

福音館書店　650円

キャタピラのついているあかいりっぱなトラクターのけいてぃー。とても強くて大きくていろいろな仕事のできるけいてぃー。

ある冬の日、ジェオポリス町が大雪になる。つぎつぎに雪かきとらっくが動けなくなり、何もかも通れなくなってしまう。その時、ただひとり、けいてぃーは動いていた。郵便局、電力会社、水道局、病院、飛行場と東西南北に道づくりをするけいてぃーの大活躍。「よろしい、わたしについていらっしゃい。」と、くり返される言葉のリズム、細かく表現されながら動きのある絵が楽しい。子どもの社会性と夢を育てる本である。

しょうぼうじどうしゃ　じぷた

渡辺茂男　さく　　山本忠敬　え

福音館書店　380円

はしご車の〝のっぽくん〟　こうあつ車の〝ぱんぷ君〟　救急車の〝いちもくさん〟はビル火災の時はいつも出動し、活躍をする。点検の日、3台はそれぞれ自分の働きを自慢し合う。子ども達もこの3台のことは大さわぎをするが、同じ消防署のすみにおかれている、ジープを改造した〝じぷた〟のことなんか気にかけていない。

ある時、山火事があり、大型車が乗り入れられない所で〝じぷた〟が大活躍をし、みんなから注目されるようになったという、子どもの興味と関心をとらえた絵本。

成果をあげる郷土資料モニター

昭和53年11月発足した郷土資料モニター制は、 早いもので1年を迎えることになりました。この制度は島根県内各市町村にモニターを委嘱し、市町村内における郷土資料に関するあらゆる情報を収集し、県内における郷土資料の所在の把握と県立図書館郷土資料の充実をはかるものです。

モニターになってもらう方々は、 各市町村教育委員会の協力を得て、地域の事情に通じ、かつ県立図書館の郷土資料収集に協力的である方73名を選んで委嘱しました。モニターの方々は、随時、その居住する市町村内の刊行物や古文書の所在等に関する情報を通報していただくわけです。

このような制度は全国的にもユニークなもので、他県からもその成果が注目されています。

さて、モニター制度発足1年を迎え、モニターの皆さんの積極的協力によって成果も着着とあがっています。今年10月末現在で、105件の報告をいただき、それによって従来の収集方法ではキャッチできなかった部分を、数多くカバーすることができました。

モニター制による顕著な成果は、

①新刊書の情報

自費出版や団体発行物などで、流通機構に乗らない新刊書は、当館の収集網からどうしてもぬけてしまいますが、モニターによる通報で充分なカバーが可能になりました。

『続安田誌』『蓮来会の歌』『痛ゆく日々』『いしずえ一上意東戦時記録一』『八雲村の遺跡』『上井古墳調査報告』『ある山家』『才の神ある記』『熊野大社』『老人のための明るいまち指定都市』『老人白書』『天寿まもりて』『高櫓城址と西須佐の史蹟考』『古木竜吟』『大梁灰ル一家言』『ひまわり』『藤原薫の生涯』『道ひとすじに』『波佐郵便局開局百年のあゆみ』『昭和二川村物語』『蛇久保のはなし』『婦人と暮し5月号一萩・津和野一』『津和野漫歩12ケ月』『幕末滛祀論叢』『あしたなき』『津高創立七十周年記念誌』『隠岐島布施村の民話と民謡』『明治大正時代の婚礼風景』『桜江町振興計画』等

②逐刊物の充実

市町村広報や農協広報、または俳句・短歌などの同好会誌、公民館のつどい、読書会の会報など、逐次刊行される資料の充実はモニターの協力により、情報や送付が大巾に増加しました。

『各市町村広報』『きれんげ』『愛の輪』『老連いつも』『ひまわり』『むらくも』『うしほ』『あしあと』『わかな』『俳句教室句集』『山のほそ道』『農協のなみ』『おあし報』『社協ひらた』『身障協会ひらた』『農協だより』『市民児協だより』『出雲の社会福祉協議会だより』『農協だいとう』『邑南農協だより』『旭町農協ニュース』『旭町商工会ニュース』『市山局だより』『桜江町防災計画』『八戸川』『石東地区の商品価格』『はちすの子ら』『議会だより』『桜江町川戸地質調査』等

③学校発行の逐刊物の充実

各学校で出される会誌や文集・研究紀要はモニターの働きかけにより学校から送付されることが多くなりました。

『さきくに』『たかしび』『のなみ』『潜戸』『海の子』『島中広報』『渓流』『高体連』『にまのこども』『おきの子ら』『あらなみ』等

④所在が判明している郷土資料の所蔵状況についての連絡

『出雲国地誌略』『平賀元義の短冊』『石倉久夫氏所蔵文書』『広瀬絵図』『秋庭勇一氏所蔵文書』『坪内家所蔵文書』(これは文書目録の送付がありました。)『雪川公句集』『宇都宮真名介軸物』『佐太神社文書目録』等

⑤入手困難な資料のコピーによる収集

稀覯本や文書など原物収集が困難な資料もモニターによってコピーをしてもらい、入手することができました。

『小林家(小林如泥)勤功書』『天正10年6月2日付毛利輝元軍忠状』『嘯吹神社再建明細帳』『明治11年島根県一覧既表』『田植歌本』等

⑥レファレンス回答の充実

当館だけでは回答できなかったものが、モニターの協力により、回答可能になったケースがしばしばあります。たんに、資料の連絡だけでなく、各地域の方々とこのような形で密接につながりができてきたことも、この制度のもうひとつの成果といえるでしょう。